

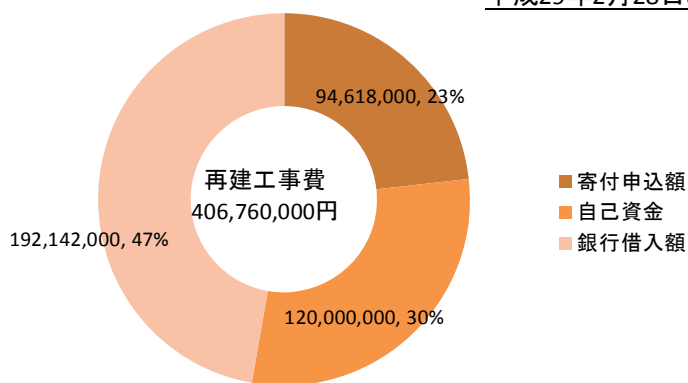
再建だより

(第7号)

ご寄付の途中経過と本設計

資金計画進捗状況

平成29年2月28日現在



6号から少し間があいてしまいましたが、檀信徒の皆様からのご寄付は順調に寄せられています。

前号でご紹介した、「寄付目標額に達しても、お寺の借り入れがなくなるわけじゃないんだから・・・。」というご忠告を受けて、今号からは、「資金計画進捗状況」をお知らせしてまいります。

再建工事費の総額のうち、ご寄付額、自己資金額、銀行借入予定額の割合が一目でお分かりいただけるかと思います。

寄付人数

337 名

寄付人数内訳	一括	299 名
	分割	38 名

寄付逸話

「再建寄付申込書」に、一通のお手紙が添えられていました。

「三寒四温のこの頃、圓福寺様におかれましては、お寺再建の大事業で、ご多忙のことと存じます。

モノレールスポーツセンター駅から、燃え盛る火事の様子を見たあの時の衝撃は忘れることができません。それが、圓福寺様であったことを後で知ることとなり、二度の衝撃でありました。その後、車で通るたび、お寺の空き地を垣間見るにつけ、困難さがあるけれど、この地にお寺の再建を願わずにいられませんでした。かつて、わが

家の亡母の十三回忌の法要をお願いしたご縁でございましたが、その後お送りいただいている圓福寺報を毎回楽しみに拝読させていただいております。

今、こうしてお寺の再建が進み、近くに住む住民として大変うれしく思っております。再建の一助ともなればと、寄付させていただきます。」

お近くにお越しの折には、ぜひお立ち寄りください。おいしいお茶の一杯でも差し上げますから。と早く言いたいものです。

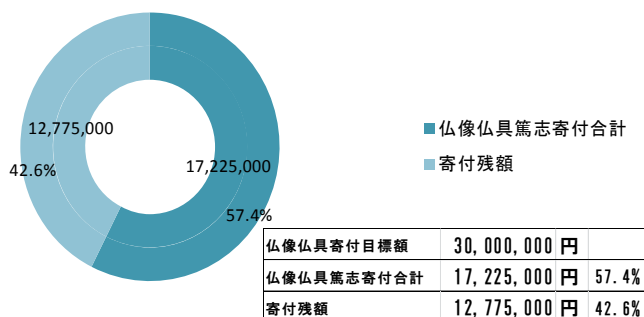


目次：

仏像仏具篤志寄付	2
本設計打ち合わせ	3～4
打ち合わせの途中ですが	5
本山への提出書類	6
ご寄付のお振込みについて	7
ホームページリニューアル	7
火伏達磨（ひぶせだるま）	8

仏像仏具篤志寄付の途中経過

仏像仏具篤志寄付途中経過



再建工事費のご寄付と同時に、仏像仏具をしつらえるための篤志寄付もお願いしておりますが、その途中経過も左記の通りお知らせいたします。

篤志寄付のお願い

以前の本尊様、釈迦三尊像は、現住職の代に安置させていただきました。古い記録によると、圓福寺の本尊様はお釈迦様であったとひも解くことができたのですが、いつの間にか観音様にすり替わっていたことがわかったのです。そこで、内陣建て替えの際に、もともとのお釈迦様をご安置したのでした。

とはいえ、名のある仏師にお願いして彫っていただくほどの資金もなく、仏具屋さんにご相談したところ、材料の尾州檜を用意して、それを中国に送って彫ってもらうのがいいのではないかということになりました。中国の仏像彫刻の技術もかなり向上しておりましたが、材料に関してはまだ不安を拭い去れない頃でした。多少の不安はありましたが、予算的には致し方ないことでした。それでも、お釈迦様の出来栄は見事なもので、ご面相も穏やかなお姿のお

釈迦様でいらっしゃいました。火事の後に、もしやと思って内陣のあたりを探してみましたが、お姿の一片も目にすることはできませんでした。

住職在任中に、二度も本尊様をお迎えする人もいらっしゃらないですねえ、と仏具屋さんに言われながら、仏像を彫ってもらうのには時間がかかることなので、再び相談をいたしました。事情を知っている仏具さんは、当然のように中国での製作を念頭に置いているのですが、以前本尊様を安置してから、約十年の変わりように驚かされました。なんといっても、中国の人件費の高騰です。同じ大きさの釈迦三尊像が、安く見積もっても三倍強の値段がするということです。しかも、材料は檜ではなくてです。予算の数字を頭に浮かべながらの苦肉の策は、本尊様は三尊仏にしないで、お釈迦様だけということで見積もりをお願いすることにしました。

このように、お寺の中心である本尊様を準備するところから、苦難の道がはじまりました。できる限り、予算内におさめるようにと努めてまいりますが、皆様からの篤志のご寄付が頼りでございますので、なにとぞ協力のほどをお願い申し上げます。



見舞金決定！

臨済宗妙心寺派の「寺院本堂互助見舞金規定」により、互助見舞金支給申請書を提出しておりました。

設計士さんとの打ち合わせや、庭木や庭石の片づけなどに追われている中、本山の総務部から電話がありました。

「寺院本堂互助見舞金規定による見舞金が満額交付されることが決まりましたので、お知らせいたします。」とのことでした。

「つきましては、後日、宗務総長がお見舞いにお伺いいたしますので、よろしくお願いします。」

聞きなれない宗務総長という役職名かと思いますが、管長猊下が妙心寺の住職で妙心寺派の象徴とすれば、宗務総長は妙心寺派の宗務行政の長ということですから。そんな一番偉い方がわざわざ圓福寺に足を運んでくださることは、お寺始まって以来、前代未聞のことです。

全国の妙心寺派およそ3360ヶ寺を代表して、お見舞いにお越しくくださるわけですから失礼のないようにお迎えすることはもちろん、お見舞金は伽藍再建に大切にに使わせていただかなければと気持ちを引き締めているところです。

本設計打ち合わせ

打ち合わせ記録

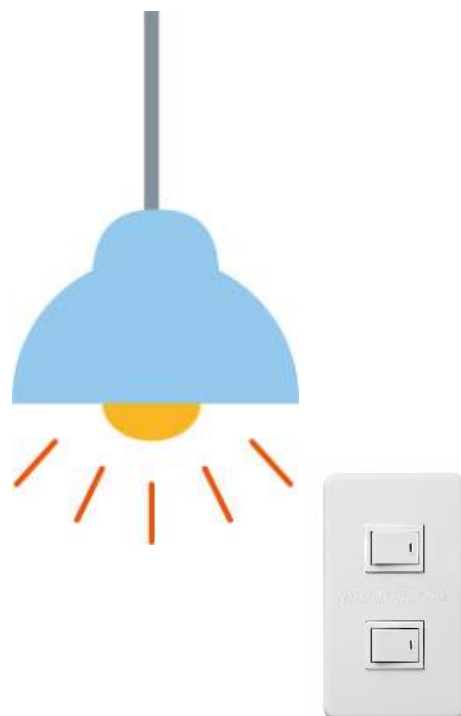
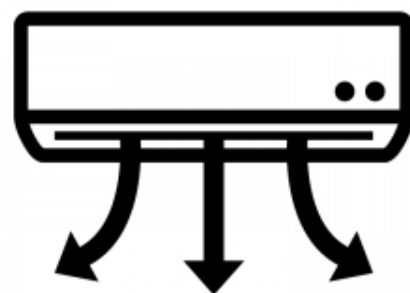
月日	主な内容
1月18日	本堂上間の床の間を納骨室に変更、トイレの仕様。給水給湯及び換気空調設備の件
1月25日	照明機器、スイッチとコンセントの配置、エアコン設備の配置
2月15日	庫裡玄関屋根の変更、外構の床仕上げと塀、山門について
3月6日	予定

上の打ち合わせ記録でもお分かりいただけるように、打ち合わせ内容も意匠から設備へとなっていきました。

こうなると素人では不安ですので、役員さんの中の建築会社会長さんと電気設備会社の社長さんに同席してもらっています。

空調の吸気口と吹き出し口と

の関係や照明機器とスイッチの関係など、たくさんの線が交差している図面は、まるで私の頭の中といっしょで混乱しているように見えますが、さすがに専門家は的確な確認と指示をしてくれています。必ずや使い勝手のいいものになると、大船に乗った気分でおります。



本設計打ち合わせ経過

庫裏玄関廻り

玄関南の妻壁（虹梁・墓股の彫刻）の追加

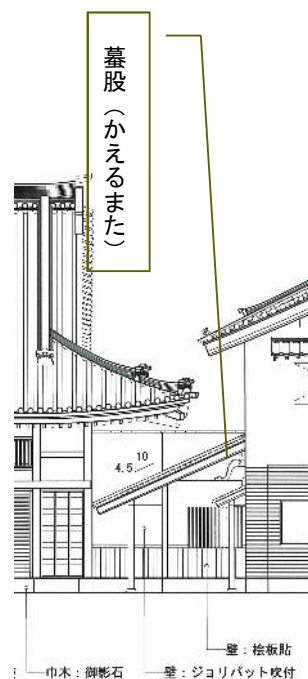
玄関南側は、来客が歩いてきて一番目に付くところなので、妻壁に虹梁・墓股（かえるまた）をつけるように変更しました。これにより、庫裏二階南側の妻壁との統一感が出て、禅寺の庫裏らしさを感じられるようになります。

玄関廻り外壁の腰部分を桧板貼りに変更し真壁風に付け柱追加

玄関廻りの外壁をタイル風なものから、腰部分を桧板貼りに変更しました。これに伴い、腰から上の部分を真壁（しんかべ）風にして、付け柱を取り付けることになりました。本堂正面から庫裏玄関にかけての外壁に統一感を持たせることができます。

玄関ホールにエアコン追加

玄関ホールを広くとったので、ここにもエアコンを設置することにしました。



本堂

内陣部分にエアコン追加

一番風通しが悪く、特に大法要の時には熱気がこもってしまうところなので、エアコンを設置することにしました。

上間の床の間を位牌堂（納骨壇造付け）に変更

伝統的に床の間を設けるところですが、デッドスペースになりがちです。そこで、以前と同じように、正面に文殊菩薩を安置して、その前を禅堂に見立て坐禅する場所にいたします。また、文殊菩薩の左右を一時預かりの納骨堂とします。

中庭に面した廊下に掃出しサッシュを追加

折角の中庭なので、開口部をできるだけ大きくするように改良いたしました。

西廊下廻り

西廊下の西側窓を花頭窓に変更

採光と西日対策という相反する要件を、花頭窓（かとうまど）でクリアできると思います。

西下屋（西廊下部分）の軒裏と天井を化粧垂木（桧特一材）に変更

花頭窓に合わせるために、外部の軒裏と内部の天井を化粧垂木に変更いたしました。

西廊下外壁の腰部分を桧板貼りに変更し真壁風に付け柱追加

外壁も花頭窓に合うように、腰部分を桧板貼りにして、上部の壁は真壁（しんかべ）風に変更いたします。これにより、本堂西側から、本堂正面そして庫裏玄関廻りへと、外壁が統一されることとなります。



打ち合わせの途中ですが

井戸のこと

これまで、本堂前の手水鉢の水やお茶に使う水、錦鯉が泳いでいた池の水、庭への散水などに井戸を使用してまいりました。貴重な井戸水だから、お参りの人にも使ってもらえるようにと、自分で給水排水の配管をして、本堂前に手水鉢を据え付けたのもなつかしく思います。

また、災害時の飲料水としても使えると思っておりましたが、どうやら再建工事に伴い、井戸を閉

じなければいけないようです。設計士さんにはできれば残してもらいたいとお願いしていますが、望み薄です。

となると、庫裡玄関前に移設する手水鉢の水をどうするかが悩みの種となりました。笕(かけい)から、今までのようにチョロチョロと流す風情はもうなくなります。でも、毎日水を替えてきれいにしていく方が、茶道の方では手水鉢の本当の姿なのだそうです。



お地藏さんとドライブ

忙しい合間を縫って、庭の片づけを始めています。素人でも移植できるツツジやサツキなどは、掘り上げて市原別院の方に軽トラックで運んでいます。幸いに、出入りの石屋さんが、クレーン付きのトラックを貸して下さり、庭石なども運び出しています。

先日は、わらべ地藏も市原別院

にお連れしました。傷がつかないように慎重に寝かせて、クレーンでトラックの荷台に乗ってもらいました。わらべと言ってもチャイルドシードではなく、角材で転げないようにして、無事市原までのドライブが終わりました。プレハブ本堂の玄関で、手を合わせていらっしゃいます。



カホー

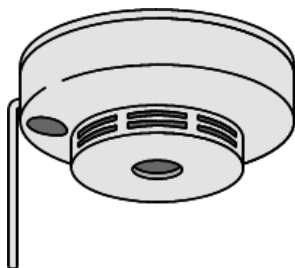
設備関係の打ち合わせをする中で、警備システムをどうするか、警備会社の方と話をさせていただきました。

以前と同様、事務室部分に警備通報の設備を取り付け、本堂はいつでもお参りできるように警備通報の設備は付けずに防犯カメラだけにすることにしました。

警備会社の方が、「ところで、

『カホー』はどうしますか?」。「カホー」???、聞けば、火災報知機のことだそうです。もちろん設置しますと即答いたしました。それも、警備会社への通報も連動するものにしました。先日のアスクル倉庫の火災では、通報システムが取り付けられていなかったのだそうです。

「火の用心、火の用心。」



本山への提出書類

承認書下附願（伽藍再建の承認）

臨済宗妙心寺派では、所属寺院はその伽藍の新築や再建など著しい変更をする場合には、本山の承認を得なければならないことになっております。

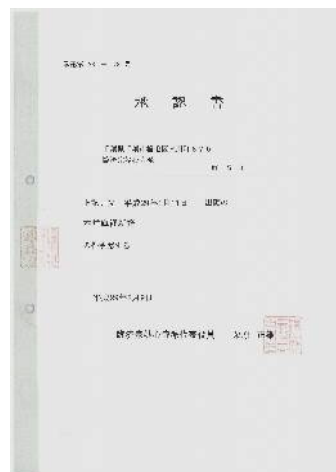
そこで、このたびの伽藍再建にあたっては、承認書下附願を提出しなければなりません。

この承認書下附願には、以下の添付書類が必要となります。

- 1、理由書
- 2、責任役員会議事録

- 3、総代会等同意機関の同意書
- 4、予算書
- 5、土地の表示（図面）
- 6、設計図（平面図、立面図）

昨年末に基本設計がまとまり、本年早々に承認書下附願を出願して、2月9日付で承認書の交付を受けました。（右の通りです。）



本山から交付された承認書です。

本堂互助見舞金支給申請書

妙心寺派には、寺院建物共済組合による援助金の制度のほか、3ページでもご紹介のように、臨済宗妙心寺派の「寺院本堂互助見舞金規定」があります。その見舞金を受けようとする際には、支給申請書を提出しなければなりません。

これには、上記の承認書下附願

同等の添付書類が必要となり、本年早々にようやく提出することができました。

なお、規定では本堂の全壊または全焼に対して1,000万円、半壊または半焼に800万円、一部破損または一部焼失に100万円となっており、圓福寺は1,000万円の見舞金の支給を受けます。



その他の提出書類

上記以外にも本山に提出しなければならない書類が下記のようにあります。

提出済みのもの

- 1、被災届(寺院建物共済組合)
- 2、罹災届(花園会本部)
 - お寺に限らず、花園会員が罹災した時に提出して、お見舞金をいただくことができます。
- 3、賦課金減免願
 - お寺から本山の納める納付金の

減免をお願いし、認められると3年間の減免となります。
今後提出する予定のもの

- 1、承認書下附願(借入の承認)
 - 今後、金融機関からの借入を起こす際にも、本山の承認が必要となります。
- 2、工事完了届
- 3、感謝状申請書
 - まとめるといういろいろあるものです。



お願いとお知らせ

ご寄付のお振込みについて

一括でのご寄付のお申込書をご提出されて、いまだお振込みをされていない方がおいでのようです。分割でのお申し込みをされた方には、手続きの用紙をお送りさせていただいておりますが、一括でのご寄付を申し込まれた方には、振込用紙等をお送りいたしておりませんので、それぞれお取引の金融機関からのお振込みをお願いいたします。

念のため、圓福寺の寄付金の口

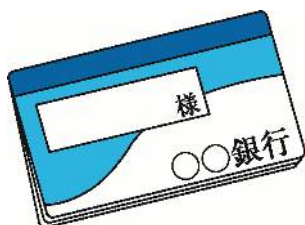
座を下記の通り、再掲させていただきます。

【千葉銀行】

稲毛東口支店（普）3845400
宗教法人円福寺 寄付金口
代表役員 宮田 宗格

【ゆうちょ銀行】

記号・番号10590-87668711
宗教法人 円福寺



ホームページリニューアル

伽藍再建にあたり、今まで更新を休んでおりましたお寺のホームページを作り直して公開いたしました。リニューアルに伴い、スマホやタブレットなどでも閲覧できるようにいたしました。

再建に関する「圓福寺再建に向けて」をはじめ、「再建だより」も掲載しております。今後は、工

事の進捗状況が分かるように、現場の写真なども随時掲載していく予定であります。

また、以前のホームページ同様、「圓福寺報」や「四国あるき遍路」の写真集などはバックナンバーも閲覧することができるようになっています。

<http://chiba-enpukuji.com>

ホームページ考

以前、ホームページを業者さんにお願いで作ろうと思い、どんなイメージかが分かるようにと、レイアウトや内容やらをまとめていたら、そのままホームページになることに気づき、自分で作ることができました。しかし、新しい内容を公開するためには少々手間と時間がかかりました。そのうち、お寺のニュースや活動を公開するのに、そんな手間と時間がかかるのでは、その時間を庭掃除や作務に充てることの方が大事だと思いはじめました。ホームページに載せるためにいろいろやっているのは本末転倒の話

なわけです。本来の仕事を十分にやった上で、ついでにホームページにも公開しようかというのが、あるべき姿だと気がき、いつしか更新を休んでしまいました。

しかし、伽藍再建せざるを得なくなり、そのためには計画の進捗状況をお知らせしなければなりませんので、「再建だより」を逐次発行することにし、同時にホームページでの公開も必要に駆られてすることといたしました。

工事が進むにつれ、リアルタイムに近い情報をお伝えできると思います。



仮設寺務所や市原寺務棟、幼稚園園長室と、事務仕事は三か所で行っています。打ち合わせが進むにつれ、いずれ仮設寺務所は工事が始まると、その場を立ち退かざるを得ないことが現実的になってまいりました。さて、今度は駐車場にと思ったら、そこもいずれは工事現場になってしまいます。

そこで、幼稚園園舎の倉庫をしばらく間借りして、仮寺務所にするを考えています。その時には、お寺にご用事がある時には、幼稚園の道路側入り口から仮寺務所にお越しいただくことになるかと思います。詳細は、決まり次第、改めてお知らせいたしますが、寺務所のジブシー生活はしばらく続きそうです。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどお願い申し上げます。

臨済宗妙心寺派 圓福寺

千葉市稲毛区穴川町375

電話：043（251）9181

FAX: 043（251）9549

電子メール：oshou@chiba-enpukuji.com

ホームページ： <http://chiba-enpukuji.com>

火伏達磨（ひぶせだるま）

右の達磨さんは、お正月の寺報にも掲載の賀正達磨です。

掛け軸の右側の波模様に見える部分は、巻かれた状態で焼けたことがわかる焼け跡です。

修復してくれた表具屋さんが、同じような掛け軸を見たことがありますと教えてくれました。その日蓮宗のお寺さんでは、焼け残ったお題目を「火伏題目（ひぶせだいもく）」と称して、火の用心に靈験があると言い伝えられているのだそうです。

そんな話を聞いたら、そういえばこの賀正達磨の掛け軸を収納していたところ

で焼失から免れたのはこの達磨さんの掛け軸だけだったなあ、その収納場所が一番隣家と近いところだったなあ、あの強風の中にも関わらず隣家に延焼もしなかったなあ、もちろん消防隊の方々の懸命な消火活動のおかげもありますが、もしかしたらこの達磨さんは、火伏（ひぶせ）の達磨さんなのではないかと感じざるを得なくなりました。

伽藍再建の暁、正月三が日に限って賀正達磨として、玄関で皆さんをお迎えいたしますので、お寺にお年始のあいさつにお越しの節に、一年の火の用心を祈ってはいかがでしょうか。

